

HDS025-02

会場:103

時間:5月22日 09:45-10:00

## ALOS データによるブータン・ヒマラヤの氷河湖インベントリー公開に向けて Free Public Access on Glacier Lake Inventory in the Bhutan-Himalayas using ALOS Data

奈良間 千之<sup>1\*</sup>, 田殿 武雄<sup>2</sup>, 浮田 甚郎<sup>3</sup>, 山之口 勤<sup>4</sup>, 河本 佐知<sup>4</sup>, 富山 信弘<sup>4</sup>, 矢吹 裕伯<sup>5</sup>, 藤田 耕史<sup>6</sup>, 西村 浩一<sup>6</sup>  
Chiyuki Narama<sup>1\*</sup>, Takeo Tadono<sup>2</sup>, Jinro Ukita<sup>3</sup>, Tsutomu Yamanokuchi<sup>4</sup>, Sachi Kawamoto<sup>4</sup>, Nobuhiro Tomiyama<sup>4</sup>, Hironori  
Yabuki<sup>5</sup>, Koji Fujita<sup>6</sup>, Kouichi Nishimura<sup>6</sup>

<sup>1</sup> 総合地球環境学研究所, <sup>2</sup> 宇宙航空研究開発機構, <sup>3</sup> 新潟大学, <sup>4</sup> リモートセンシング技術センター, <sup>5</sup> 海洋研究開発機構, <sup>6</sup> 名古屋大学

<sup>1</sup>RIHN, <sup>2</sup>JAXA, <sup>3</sup>Niigata Univ., <sup>4</sup>RESTEC, <sup>5</sup>JAMSTEC, <sup>6</sup>Nagoya Univ.

2009年度～2011年度にかけての JICA/JST プロジェクトの「ブータン・ヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水に関する研究」において、私たちはブータン・ヒマラヤの氷河湖インベントリーの作成を開始した。ヒマラヤ地域では、10年に1～2回の割合で氷河湖決壊洪水（GLOF）が起きており、氷河湖の分布と基本情報を記した氷河湖インベントリーの作成と公開は、地元の人々の認知度の高まり、関係者の GLOF 対策、世界の研究者の氷河湖研究に役立つ。

衛星班を中心とする研究メンバーは、ALOS の PRISM（解像度 2.5m）と AVNIR-2（解像度 10m）から作成したパンシャープン画像を用いてマニュアルで氷河湖を抽出した。抽出する氷河湖は、「氷河の前面から小氷期モレーンの間、および同モレーンの下流側 2km 以内の 0.01km<sup>2</sup> 以上の氷河湖」とした。現在までにブータン全域で 129 のパンシャープン画像を作成した。ブータン全域の 8 つの流域の抽出状況を見ると、68 の画像を用いた氷河湖抽出が終了しており、全体で 600～700 の氷河湖のうち 400 の氷河湖の抽出を終えた。しかしながら、多くの画像は雲で覆われており、すべての氷河湖の抽出が終了した流域はまだない。現在、3月の氷河湖インベントリー・サンプルの WEB 上公開に向けて、Mangde Chu 谷を対象に AVNIR-2 で抽出できていない氷河湖を補完し、氷河湖 ID、衛星パス、撮影日、緯度、経度、流域名、面積、長さ、幅、高度、方位、氷河湖タイプ、ICIMOD ID の情報を入れた氷河湖ポリゴンを公開予定である。本発表では、氷河湖インベントリーの内容と 3月に公開したインベントリーのサンプルについて報告する。

キーワード: 氷河湖, 台帳, ALOS, 氷河湖決壊洪水, ブータン・ヒマラヤ

Keywords: Glacier lake, Inventory, ALOS, GLOF, Bhutan-Himalayas